

経営比較分析表（令和6年度決算）

長野県 佐久市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	小規模集合排水処理	12	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	74.89	0.05	66.71	4,510

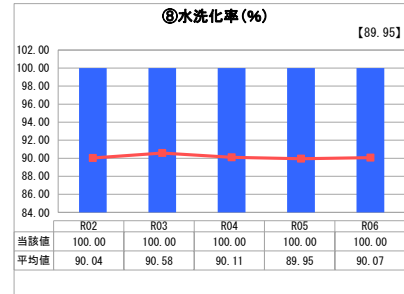
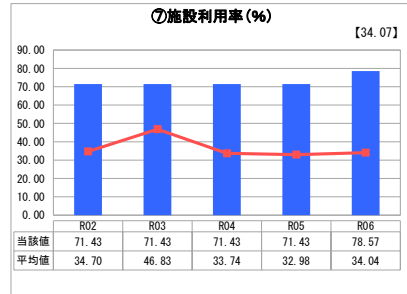
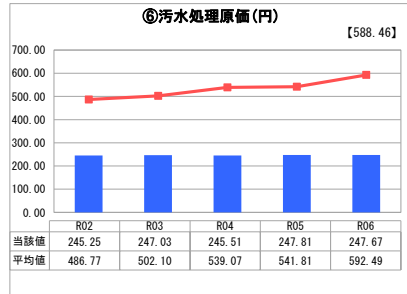
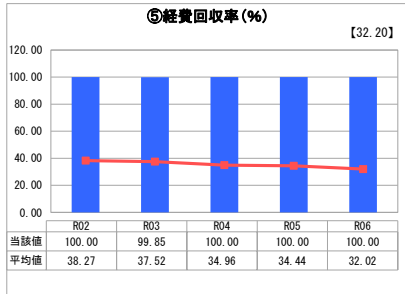
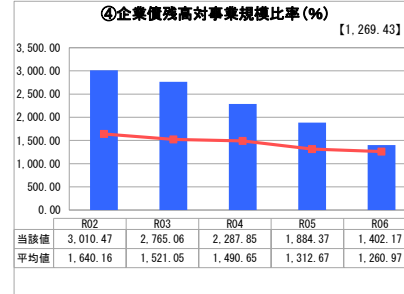
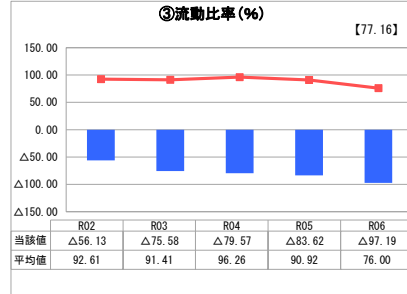
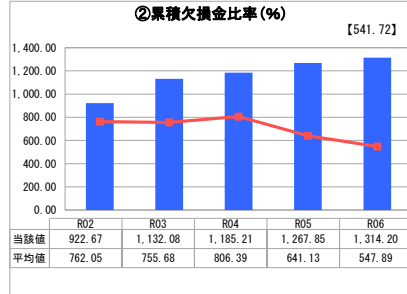
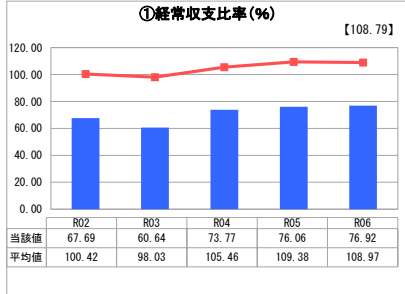
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
97,380	423.51	229.94
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
46	0.01	4,600.00

グラフ凡例

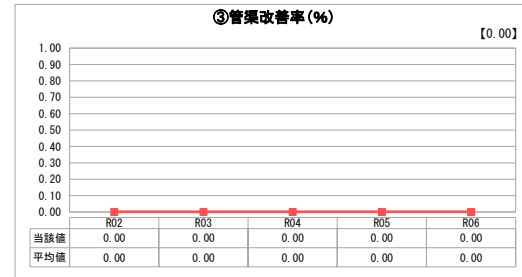
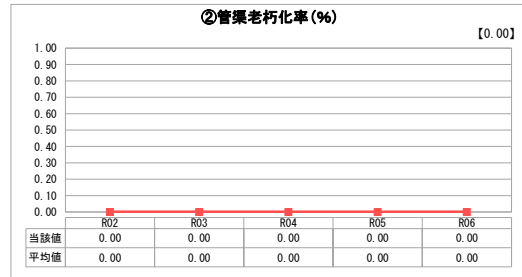
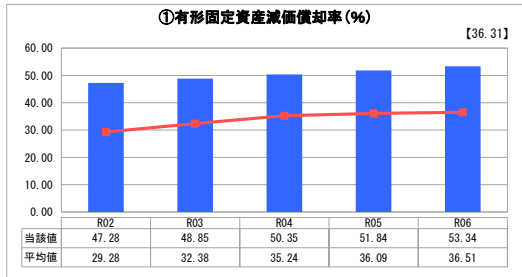
- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は、毎年、100%未満のため赤字経営であり、欠損金が累積されていく状況である。流動比率は、赤字経営のため、現金預金などの流動資産も増加する状況にはならない。企業債残高対事業規模比率については、年々、企業債の償還が進んでいることから減少傾向にあるが、類似団体の平均値より高い状況にある。経費回収率が100%であることについては、繰入金算定における分流式下水道等に要する経費の見直しによるものである。汚水処理原価については、例年ほぼ横ばいで推移しており、類似団体より低い水準にある。しかしながら、経営規模が極めて小さいため、突発的な故障や老朽化に伴う高額な修繕費が発生すると、大きく上昇してしまう。水洗化率は、事業規模が小さく、利用者に変化があまりないため、毎年、横ばいである。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は年々増加し、類似団体の平均値よりかなり減価償却が進んでいる。耐用年数に近づきつつあるが、処理区内人口、施設の規模、収益の状況からは、大規模な改築更新工事は行えない。

全体総括

当該施設は、小規模であり、現在、サービス需要の変化が、あまり見られないが、将来的には人口減少に伴い減退していくことが推測される。老朽化が進行しており、施設の老朽化に伴う更新需要は増大しているが、規模が小さいため収益も少なく、更新資金の確保が困難な状況にある。公営企業に限らず市職員の人材確保が困難な状況で、特に技術系の若手職員が退職等により不足していることが課題となっている。近年の職員給与と費の増加や物価高騰による営業費用の増加の影響を受け、累積欠損比率も年々増加し、この事業単体では、自立した経営が困難な状況にある。近隣施設との統廃合も困難であるため、経費削減を図るとともに、施設の適正な維持管理による延命に努めざるを得ない状況である。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。